

いたやなぎ 町議会だより

平成28年
9月定例会

第11号
2016. 11. 11



第2区 3.8 km
野呂陸斗選手
(板柳中学校3年)



第5区 2.5 km
小山内琉香選手
(板柳中学校3年)



第8区 3.8 km
福士竜生選手
(板柳中学校3年)

主な内容

- 4人が一般質問 P2~5
- 決算特別委員会審査他 P6~7
- 視察レポート他 P8~9

まちの宝・子どもたち
～たすきをつなぐ中学生!～

第24回青森県民駅伝競走大会

町民の声を町政に

第3回定例会一般質問

第3回板柳町議会定例会が、9月1日から9日までの日程で開催されました。9月5日に行われた「一般質問」に、4名の議員が登壇し質問しました。

一般質問は、議員の日常活動と町民の声や議員自身の考え方をもとに町長や教育長などの方針を問うものです。板柳町議会では、1人60分の制限時間があります。議会だよりは、スペースの都合上、質問と答弁が要約してありますので、臨場感ある本会議場での傍聴をお待ちしています。(今回の傍聴者・7人)

最終処分場



三戸 玲子

問 町の最終処分場は大量埋め尽くされ、焼却灰が多量に入ってきている状況だが、あと何年もつのか、今の状況は。

答 (成田町長) 過去の実績から試算すると、埋立完了予定は7年後の平成34年度になるものと想定される。

問 庁議などで検討の有無及び、今後の方向性は。

答 (成田町長) まだ検討しておらず、これから具体的な対応を考

える。手数料を払うと弘前地区環境整備センターで処分ができるので、対策の一つである。焼却灰の処分も業者を利用する方法もある。

体育大会受け入れ

問 県民体育大会が西北五地区で開催され、当町では選手たちの努力により町の部2位であったが、残念ながら当町を会場とした町の部の種目がなかった。大きな大会を開くためには、複数の運動場や審判、競技役員などの人材が必要であるが、当町の現状は。

答 (成田町長) 現時点で対応できる施設は野球場とソフトボール場があるが、本部や観客用の設備がなく、招致が難しい。大会運営に携わる人材は、野球9名、ソフトボール1名の公認審判員がいる。審判員は、県や郡単位で集団として活動し、不足がないとのこと。審判員以外では板柳管内では野球、ソフトボールの各協会から協力を得て大会を開催している。

問 中学校の陸上競技場が、第3種公認(※)を取得するための必要経費はいくらか。

答 (佐藤生涯学習課長) 全天候型トラックにする必要があり、過去の概算で約4億円かかるとのこと。単独の市町村で維持することは難しく、広域で管理し

たほうがよいのではとの意見であった。

問 施設が整備されていない競技を精査し、立派な施設ではなくとも、問題なく競技できるよう対応してほしいが、町長の考えは。

答 (成田町長) 町民のスポーツ振興という観点から、施設の環境整備は大事だと認識しており、どのように整備すべきか検討したい。

道の駅整備

問 道の駅が大きな役割を果たしており、町民の所得向上、りんごワーク製品の売り上げ向上のため、大事な要素だと思うが、道の駅や産直施設について町長の考えは。

答 (成田町長) 休憩施設と地域振興施設が一体となった道の駅は、国土交通省により登録されるもので設置間隔10キロ、24時間利用可能な駐車場やトイレ、電話、情報提供施設を備えた施設であることなどの設置基準がある。その整備は、国や県が駐車場

やトイレを整備し、市町村

公的団体が産地直売所などを設置する形がとられている。このことから、町の財政状況や近隣の道の駅との間隔などを考慮すると、現時点での道の駅の整備登録は難しい。産地直売場については、農家の所得向上を図る上で大変大事な施設であり、必要である。

問 客数が減らないように、将来的な展望として、ふるさとセンターにも手を加える必要があるのでは。

答 (成田町長) 当町には道の駅はないが、施設の立派なふるさとセンターがあり、これに道の駅にかわる機能を持たせて、今後さらにその施設の整備充実が必要である。財政的なこともあり、今すぐに対応はできないが、課題の一つである。



成田 陽光

(※) 第3種公認：日本陸上競技連盟が定めた競技のできる陸上競技場の規格の一つで、全天候型トラックを有することなどが求められる。

若者の選挙

先年の参議院議員選挙において、当町の18、19歳の投票率は。

葛西選挙管理委員長 18歳は約41%、19歳は約35%である。

投票率向上のためのキャンペーンなどは。

葛西選挙管理委員長 全世帯にチラシの配布、防災無線による広報、スパーでの呼びかけのほか、18、19歳の方にはがきを送付し、投票を呼びかけた。

小中学校における民主主義や選挙など、政治を身近に感じる教育を実施しているのか。

木村教育長 直接的な学習という形では行われていないが、小中学校では学級会や児童会、中学校では学級会や生徒会の役員選出方法として、選挙を経験している。選挙権が大切な権利であることを社会科で学習している。

当町は教育の町を標榜しているのです、小さいころから政治に親しむような教育の新しい取り組みを考えてみては。

木村教育長

校長会等の中で確かめながら進めていければ。授業の中で実際に取り上げるかは各教員の方法によるので、機会があれば伝えたい。

公共施設建替計画

役場庁舎をはじめ、中学校、消防署、町民体育館など、老朽化が否めない。公共施設は、町民の交流及び人の流れをつくる重要なものであり、生活基盤そのもの。財政的に一度に建てかえることは厳しいが、計画がなければ建て替えもままならないと思うが、公共施設建て替えの優先順位について町長の考えは。

成田町長

老朽化が進んでいることは十分認識している。建て替えの優先順位については、具体的な計画はないが、限られた財源の中で、施設の緊急性、必要性を見きわめ、整備を進めたい。

中学校が一番築年数で古く、建て替えなければいけないという認識であると思うが、ほかの公共施設についても中長期的な計画がなければ進まない。今から計画するとしても、決して早いことではないと思うが、町長の考えは。

成田町長

まずは中学校校舎の建てかえ整備を早急に進めなければならぬ。他の施設も財政状況を見ながら順次進めていくべきである。

公共施設等総合管理計画の現状は。

田澤総務課長 現在業者に委託し計画を進めている。

郷土資料館

郷土資料館の活動実績と今後の利用方針は。

木村教育長 郷土資料館の運営並びに資料の採集や調査、保存等について、板柳町立郷土資料館運営委員会にお願いしている。年4回、委員会を開催して郷土資料館の補修、各種事業について検討し、今年度は板柳町のゆかりの深い与謝野寛、与謝野晶子の手紙を展示した「文化の香り展」を企画して好評を得た。また、子供文化伝承体験教室を開催している。

他との協力として、県立郷土館に土井遺跡から出土した資料を貸出したほか、今年度は岩手県からも資料の借用依頼があり、協力する。伝承と保全に重点を置いて運営しているが、委員の高齢化が進んでおり、世代交代が課題である。

郷土資料館を中心にした歴史教育は重要。委員の知識や経験を館長、教育長が若い世代に伝えてほしい。ほかとの連携をイベントにつなげたり、資料を借りる考えは。

木村教育長 委員の積み重ねてきた経験や知識を文化という形で受け継ぎたい。事業についても委員会が確かめながら、新しいものを取り入れながら活性化を図りたい。

町民の健康づくり

リンゴを使ってギネス世界記録に挑戦する事業を実施予定であることを聞いていますが、その事業内容やスケジュールは。

成田町長

調査検討の結果、リンゴを用いてリレー形式で丸かじり、リンゴを食べさせ合う最多人数という記録に挑戦することで考えている。今後の日程は、具体的な挑戦方法についてギネス社との確認をとり、10月上旬までには挑戦の公表、マスコミへ情報提供、参加者や監視員の募集開始、さらには11月下旬には参加者受付用の入場はがきを発送する予定である。

町をPRするためにも報道機関などを通じてギネス世界記録挑戦をアピールすることが大事である。町では、どのような宣伝方法を考えているのか。

成田町長

町の特産物であるリンゴをPRする最大の機会。今後マスコミ等へ情報発信をしながら、町内外の方々これを周知したい。



久米田 彦佐雄

子育て支援

問 現在子宝祝金として、第2子に5万円、第3子以降に10万円を支給している。年間では100人足らずの出生であり、年予算では1,000万円ぐらいになるが、第1子からの全ての子供に10万円を助成することはできないか。

答 (成田町長) 子育て支援対策として昨年11月から小学生を対象とした子供医療費の無料化を実施、今年度からは子育て世帯定住サポート事業や、放課後健全育成事業の対象学年を4年生まで拡充したほか、乳幼児インフルエンザ予防接種助成事業、特定不妊治療費助成事業、妊婦歯科健康診査、さらには子育て世帯プレミアムつき商品券発行など、各種施策に取り組んでいる。これらの取り組みを進め、安心して子供を産み育てることができ環境づくりに、さらに努めたい。



松森俊逸

介護保険給付費

問 56歳以上の1人当たり介護保険給付費は、県内では下位から6番目であり、非常に健全な運用を示している。平成27年度決算においても約15億4千万円の歳入に対して、歳出総額は約14億9千万円で、約5千万円の黒字である。特に歳出においては、対前年度比約5千万円の減を図ったことは、介護報酬のマイナズ改定があったことが主因であったとしても十分評価できる。現状を町長はどのように分析し、また今後に備えるのか。

答 (成田町長) 介護サービスは居宅サービス、地域密着型サービス、施設サービスから成っており、当町の平成27年度の状況は居宅サービスが

75%、地域密着型サービスが10%、施設サービスが15%で、自宅での介護サービス利用者が全体の4分の3を占め、他の市町村より多い。この居宅サービスの1人当たりの介護給付費は114万8,000円で、他の介護サービスに比べかなり低く、このことが低い介護給付費の要因である。今後も介護サービスの適正利用に努めたい。

問 在宅訪問介護を受ける高齢者宅において、勤労する同居家族がいた場合、生活援助サービスは適用になるのか。

答 (田邊介護福祉課長) 各家庭個々の状況を精査し、介護保険法の目的、理念に基づき個々の事情を考慮し、適切に介護サービスの提供が行われている。

問 例えば独居老人宅において一時的に家族が帰ってきた場合は。

答 (田邊介護福祉課長) 生活援助ができる方が一緒にいる場合には、家族の方、もしくは介護を受けている方と相談の上で適切な対応をすることになる。

介護サービス縮小

問 厚労省は、社会保障審議会の介護保険部会を開き、要介護度が低い要介護1及び2の訪問介護に係る生活援助サービス、具体的には掃除、調理、洗濯、買い物などの給付を縮小する方向で検討を始めた。要介護1、2のサービスが縮小された場合、当町で予測される影響は。

答 (成田町長) 当町では、生活援助の利用者が126名、福祉用具貸与は127名の方が利用しており、こうした方々に影響が出てくるものと考えている。国の動向を見守り、町として適切な介護サービスに努めたい。

問 移管中の要支援1、2の総合事業というのは、当町においては具体的にどのような事業を想定しているのか。

答 (田邊介護福祉課長) 訪問介護、通所介護の要支援1、2に該当する部分においては総合事業のほうに移行するという対応になるかと思う。

問 事業者はどのようなところか。

答 (田邊介護福祉課長) 現在、協議会という形で町、社会福祉協議会、包括支援センター、事業者、関係するサービスを提供する事業者の方と、情報交換をしながら今後のサービス提供についてこれから検討していく状況である。

生活保護

問 隣接類似自治体と比較した、当町的生活保護の実態について、町長の考えは。

答 (成田町長) 当町においては65歳以上の高齢者世帯で生活保護を受けている世帯が多く、このことが当町の保護率を高める主な要因である。経済情勢などが反映してくるが、福祉事務所と連携し、適正な受給指導をしたい。

問 生活保護受給者割合が前年度よりわずかながら改善したが、改善理由は。

答 (田邊介護福祉課長) 就労支援、就労につながったのではない。

子どもの困窮問題

問 経済的事由によりやむを得ず要保護及び準要保護の対象となっている児童生徒の割合が約4分の1になっている実情をいかが考えるか、また、その対策は。

答 (成田町長) 子供の貧困は虐待や不登校、非行など、さまざま

問 要保護が生活保護とリンクしている以上、要保護の基準が決まれば、準要保護もそれにリンクするのではないか。

答 (阿部学務課長) 一応リンクしている。ただ、準要保護の場合は、その世帯の合計所得等が基準になり、世帯ごとに若干状況が違う。その合計所得から控除額を引いて、残った収入額に対して保護基準額があり、その1.3倍未満であれば該当するという認定の仕方をしている。

問 実績として、基準の変動はあるのか。

答 (阿部学務課長) 基準額については、毎年変わっている。認定基準は上がっているのか、下がっているのか。

問 要保護、準要保護の児童生徒に対する援助費総額は。

答 (阿部学務課長) 27年度決算で、約1,919万円支給している。生活保護基準にのって、要保護、準要

保護についての認定基準を当町では作っているか。

答 (阿部学務課長) 板柳町要保護及び準要保護児童生徒就学援助事務取扱要項に従い準要保護の認定に当たっている。

問 生活保護家庭の児童生徒に関するは、基準が引き下げられているが、大体同水準で22.8%いる。学務課、介護福祉課と連携し、状況捕捉すべきでは。

答 (阿部学務課長) 要保護、生活保護該当者が今年度は10名、準要保護が212名である。それに対して、生徒数が973名いるので、22.8%ということである。要保護に関しては、介護福祉課と連携を取り確認している。

小中一貫教育

問 当町教育の基本方針でみると考える、平成28年度7月1日発行の「板柳町の教育」に、小中一貫教育を目指すという町長及び教育長の認識があるにも関わらず、小中初等教育における根幹をなすべき方針が記載されないのか。

答 (木村教育長) 「板柳町の教育」の内容は平成28年度現在の教育課程における教育指導の方針と重点について示されている

問 教育大綱はどうなのか。これにも小中一貫教育が記述されないが、これも年度毎なのか。

答 (阿部学務課長) 教育大綱については、基本的に5年ごとの見直しだが、必要があれば見直しも可能である。

問 小中一貫を将来的に目指すと言ったのであれば、そういう方針を発信すべきでは。

答 (成田町長) 将来的に、小中一貫を目標にして整備を進める。中学校校舎の建設を先に進めて、小学校については順次また一緒にやっていくということを考えている。

予算編成

問 算定項目の変更で見積額が変わったということだが、どの程度の変更があったのか。

答 (村上企画財政課長) 変更の項目、何項目と

問 本議会に提案された一般会計補正予算案、歳入において、地方交付税が約3億2千万円の大増額になっている。当初予算に計上できたなら違う事業ができたのでは。

答 (成田町長) 交付税算定項目など、詳細が示されるのが7月で、

当初予算で正確に見込むことは極めて難しい。予算編成に当たっては、国勢調査の結果や、国の地方財政対策の考えなどを踏まえ厳しく見込んでいく。国からは交付税については過大な見積もりを行わないようにと留意事項が示され、前年度当初の額を基準にしている。今年度の交付税額は、急激な減少を抑えるための経過措置などにより、結果として昨年度の当初算定よりも0.7%ほどの減になった。これまで決定額が予算額を下回ることなく、財政の運営や事務事業が滞ったということもない。今後とも慎重に見積りし、健全財政に努めたい。

(持ち時間の終り予て時刻となったため終り)

決算特別委員会 総括質疑

平成27年度の各会計決算を審議するため、議員全員で構成する決算特別委員会（委員長・佐藤洋治議員／副委員長・長内良蔵議員）を設置し、9月7日・8日の2日間にわたり詳細に審議しました。

数多くの質疑がありましたが、その一部を紹介します。

※平成27年度各会計予算の詳細については、広報いたやなぎ10月号に掲載されています。

■質問 長内良蔵委員

ふるさと納税で、1千万円以上の大きな収入があるが、これだけの結果を出すのに工夫していることは。また、町のりんご以外の特産物、お店の名物など加えてみては。

▲石澤税務会計課長

パンフレットを所要所に配布している。他市町村の成功例から今後はインターネットの活用も検討したい。人気のある地酒、青天の霹靂もあるので、消費者から見ても魅力のある商品を検討し、理業者と相談しながら進めたい。

■質問 長内良蔵委員

報道取材時、発言者の背後に、町の宣伝をするためのバッグボードが必要では。視覚的なPRも必要である。

▲成田町長

他の市町村では、既に使ってPRしている。ぜひ近いうちにつくりたい。

■質問 今浩一委員

福士加代子選手とタイアップしたマラソン大会など、まちおこしをして毎年来町してもらい、町外、県外から集客できないか。それが商店街の活性化につながる。福士選手の地元は日本一のリンゴの町だと、またこれが広がるのでは。

▲成田町長

福士選手の偉業を後世に

残していくということが私たちの役目。そういった意味で、委員提案の福士加代子杯マラソンなども有効調査研究したい。

■質問 三戸玲子委員

先日の大雨の際、藤崎町、鶴田町は大雨注意報がテレビで出たが、当町は出ていない。その判断はどこでやっているのか。また、災害に対する備えは。

▲田澤総務課長

おそらく、気象庁からの情報では。気象庁のほうでこの気象データを精査するに当たって、最近機械的に向上し、かなり狭い地域での予測が可能となり、幸い当町が雨雲から外れる予報であったのでは。台風の見込み等については、総務課においてさまざまな気象データ、インターネット等から収集し、板柳町、青森県内に来るというふうな予報がある場合には早急に理事者、課長全員集まり、台風に対応をまずは確認している。そのほか雨量によって、河川水位に関する国土交通省のデータをインターネットで四六時中総務課において監視し、必要な際には皆さんにも呼びかけることになる。

■質問 成田肇委員

封筒有料広告の申込み方法は。現在の広告主が退か

常任委員会 審査

総務産業厚生 常任委員会

■防犯灯

◎今年各町内、LEDの防犯灯に変わったが、電球交換等の修理は、町内会の部分は、町で修理と、これまで通りの対応か。

◎LEDの防犯灯については、今後10年間の保守管理も含んでいるため、全て町側で整備する。

■多重債務対策貸付金

◎多重債務対策貸付金はどのような内容か。

◎信用生協の多重債務者の救済措置の制度で、多重債務者に対して債務整理する際に、お金を貸しやすくする制度であり、県と連携して行っている。

◎りんごの鳥獣被害が多く十箱、十万円単位での被害にあう農家もいるが、その対策は。

◎箱罟を1棟製作し、現在のところ飯田地区の川原に設置している。今年度に関しては、もう既に数羽捕獲し、処分している。小型の鳥は霞網等にもなかなかかからないということなので、対策が非常に難しい。

■クラフト小径

◎クラフト小径のサポート態勢は。

◎サポート委員会は、今年2月に廃止しているが、今年度はこれまでサポート委員会が行ってきた内容をカバーしていくるように補助金を創設した。また、産業振興課が、施設借上手続や準備の作業等協力しており、今後とも協力を続けたい。

◆陳情

安全・安心の医療・介護を
求める陳情書 採択

ないうち、新しい企業は出せないのか。

▲村上企画財政課長

広報紙で公募という形で受付している。近年すぐに広告の応募がないこともありこちらから呼びかけをして行っている。応募があるのであれば、早目に申し込んでいただければ。

■質問 今浩一委員

ふるさとセンターのコーナーの宿泊料収入額が順調にアップしている。この要因は。

▲葛西ふるさとセンター所長

値下げで客足が増えたことと、お客様から褒められるほど職員の対応がいいことが要因では。

■質問 成田肇委員

商業施設等で選挙投票をしている市もあり、投票率の向上に効果的であると思うが、当町の今後の方針は。

▲葛西選管委員長

機会を捉えて選管委員会を開いて、投票率向上を目指したい。

▲成田町長

共通投票所は、財政的な問題、また全国では4カ所程度しかないということで、まだ全国的には浸透されておらず、今後まだまだ検討する余地がある。

■質問 成田陽光委員

保育料の滞納整理について回収機構に委託などでき

ないか。

▲田邊介護福祉課長

滞納整理機構では対応できない。職員が督促、催告等を行って保護者としてできるだけ面談等しながら納付を呼びかけている。

■質問 三戸玲子委員

個人番号カードは何人交付したのか。また、カードがないと困ることが出てくるのか。

▲中村町民生活課長

8月末現在で、交付済みが609人である。カードは身分証明書の扱いとして通用するもの。個人番号カードがなくても、通知カードで番号はわかる。

■質問 北畠弘美委員

道路占用料の内容は。▲村上地域整備課長

東北電力及びN・T等の電力柱及び電話柱の占用にかかわるものである。

■質問 成田肇委員

健診の受診率の目標はどの程度の設定か。▲大井健康推進課長

特定健診の受診率の、国における目標は60%である。まだまだ追いつかないが、これから町民にも意識改革を行い、受診率につなげていきたい。

■質問 成田肇委員

国の目標に達しない場合には、ペナルティーがあるのか。

▲大井健康推進課長

後期高齢のほうに交付金が若干少なくなる場合もある。

■質問 葛西清人委員

健診で要精密検査となった場合、自己負担で検査をしているが、他の自治体ではこの部分も助成しているところもある。このような取組で当町も受診率を上げられないか。

▲成田町長

近隣の状況、県内の実施状況を調査し、まちづくりに結びつくのであれば、検討したい。

■質問 松森俊逸委員

空き店舗活用推進事業で、申請がなく不用額があるとのことだが、夜間営業だけの飲食店は事業の対象外だと聞く。関係者と協議して緩和できないか。

▲田沢産業振興課長

この事業は、中心商店街の活性化というものが大前提にあるため、夜だけの営業の店舗に関しては外している状況である。理事者と相談しながら今後どのような対応がよいか考えたい。

福祉建設文教
常任委員会

■奨学金

◎奨学金はどのような内容か。

◎A 高校生は月額1万円、大学生等は3万円である。

卒業して1年間は据え置きで、その後10年間無利子で返済することになる。

■県大会等の応援態勢

◎県民体育大会と駅伝を応援したが、板柳チームの応援に旗や横断幕が全くない。

他市町村は様々工夫されているが、当町の方針は。

◎A 来年に向けて、板柳らしさを出せる応援方法ができないか、課内で検討したい。

■駅駐輪場監視カメラ

◎板柳駅駐輪場の監視カメラ設置工事を行ったが、稼働状況は。

◎A 警察署から要望があり設置した。24時間自動で稼働しており、盗難等があれば、要綱に基づき警察へ、監視カメラの画像を提供することになっている。設置した後一度要請があった。

◆陳情

軽度外傷性脳損傷・脳しんとうの周知と予防、その危険性や予後の相談出来る窓口などの設置を求める陳情
審議未了

議事を傍聴しませんか 次回の定例会は12月です

<議会日程のお知らせ(予定)> ※開催時間はいずれも午前10時です。

月日	内容
12月2日(金)	本会議 特別委員会報告等、提案理由の説明
12月6日(火)	本会議 一般質問
12月7日(水)	常任委員会 総務産業厚生・福祉建設文教
12月8日(木)	本会議 委員長報告等、質疑、討論、採決

傍聴者名簿に住所、氏名、年齢を記入していただければ、どなたでも本会議を傍聴することができます。なお、傍聴できる人数は51人となっております。

視察・研修レポート

福祉建設文教常任委員会視察研修

三重県松阪市

去る平成28年8月4日から6日までの3日間の日程で、参加委員、長内良蔵副委員長、成田肇委員、葛西清人委員、久米田玄佐雄委員、私、委員長は今浩一、随員 対馬事務局長の6名で、視察研修を行いました。

一日目は、松阪市役所において視察研修を行いました。

松阪市は三重県のほぼ中央に位置しており、人口は約16万8千人、高齢化率27・1%となっております。

ここでの視察研修の目的は、高齢者ボランティアポイント制度であります。

この制度は、市内在住の65歳以上の方が介護に関するボランティアを通じて、自らの健康増進と介護予防を図り、高齢者がいきいきと暮らすことのできる安心な地域社会づくりを推進

することが目的で、活動によってポイントが付与、ポイント還元、現金の交付が受けられるもので、松阪市社会福祉協議会が運営しております。

活動内容は、介護関連施設等でのレクリエーション活動への参加・支援、お茶だし・配膳、喫茶などの補助、散歩や館内移動の補助、話し相手、その他市が認める介護予防事業で施設職員が確認できる場所での活動で、三分の活動につき、ポイント、50円相当であり、活動員を「ささえさん」と呼んでおり、現在181人います。

この制度の導入で期待されることは、「地域での支え合い」、「社会貢献活動の推進」、「健康増進と介護予防」、「実質的な保険料負担の軽減」であり、大いに参考になりました。

二日目は、松阪木綿や伊勢白粉など松阪商人に関する資料が展示されている松阪市立歴史民俗資料館を視察し、その後、日本人の「心のふるさと」といわれ、全国から深い崇敬を集めている伊勢神宮をお参りし、最後は本年開催されたサミットの会場となった伊勢志摩を視察しました。

最終三日目は、日本一高いビル、あべのハルカスほか海外観光客が多く活気あふれる大阪市内を視察研修し、帰路につきました。

(委員長 今 浩一)



松阪市役所にて川口副議長と

おめでとうございます



総務大臣表彰

やすだ ひろし
安田 弘 前議長 (高増・84歳)

板柳町議会議員として8期30有余年の長期にわたり在職し、平成16年3月から議長を3期務められ、議会の活性化はもとより住民福祉の向上、地域の振興発展に寄与されました。

三期連続議長として、名誉ある受賞は誠にすばらしいことであり、心から敬意を表する次第であります。今後も良き理解者として、当町発展に対し、ますますの活躍を期待いたします。おめでとうございます。

議長 葛西 清人

全力応援!! 熱いスポーツの夏

今年初の試みとして、議員一致し、県民体育大会と県民駅伝競争大会に応援におかいました。



県民体育大会卓球会場 手に汗握る激戦でした



県民駅伝競走大会 たすきが最後までつながり感動

新人議員研修会



～議会の使命に
応えるために

発言の仕方、
効果的な一般質問～



8月23日、青森県労働福祉会館にて新人議員研修会が開催され、成田陽光議員、久米田亥佐雄議員、私、三戸正市、随員職員の中主査の4名が出席しました。

新潟県立大学国際地域学部田口一博准教授による講義では、議会の役割、使命を改めて確認、その後、標準会議規則等を元に、発言のルールを整理しました。

さらに一般質問で気をつけたいポイントや、議論を深めるためのテクニックなど、実践的な内容もあり、今後の議員活動に大変役立つ、実り多い研修となりました。

(議員 三戸 正市)

議会の動き (7月～9月)

開催日	会議等名	開催日	会議等名
7月	4日 議会だより編集特別委員会	9月	1日 議員全員協議会(定例会案件)
	〃 議員全員協議会 (町諸案件等)		〃 本会議(定例会日程、町長の提案理由等)
	8日 町例月出納検査(監査) 北島議員		5日 議会運営委員会 (定例会案件)
	11日 議会だより編集特別委員会		〃 議員全員協議会(定例会案件)
	14日 県下町村議会議員研修会 4人		〃 本会議(一般質問・4人)
	〃 総務産業厚生常任委員会視察研修 (~7/16)		6日 総務産業厚生常任委員会 (所管事務調査)
	19日 議会運営委員会 (定例会案件)		〃 福祉建設文教常任委員会 (所管事務調査)
	22日 議会だより編集特別委員会		7日 決算特別委員会
8月	1日 議会だより編集特別委員会		8日 決算特別委員会
	3日 西北津軽郡町議会議長協議会 葛西議長		9日 本会議(委員長報告、採決、閉会)
	4日 福祉建設文教常任委員会視察研修 (~8/6)		12日 町例月出納検査(監査) 北島議員
	5日 町例月出納検査(監査) 北島議員		27日 津軽広域連合議会議員行政視察(~9/29) 成田(陽) 議員
	23日 新人議員研修会 3人		〃 弘前地区環境整備事務組合議員行政視察 (~9/29) 佐藤議員
	26日 議会運営委員会 (定例会案件)		

今回の議会だよりの見所は板高生が議会を傍聴した記事です。

18歳から投票できることになった今年、若者が町議会に少しでも興味を持つことが当町の発展につながると思います。

このページ下部に、板高生3人が慎重な面持ちで傍聴している写真が掲載されています。

町民の皆様方もどうか議会の様子を見て下さい。

手続きは、傍聴者名簿に署名するだけの簡単なものです。

ぜひおいで下さいませ。

(委員 久米田彦佐雄)

【発行責任者】

議長 葛西清人

※第12号発行予定は2月10日頃です。

議会だよりへのご意見・ご感想をお聞かせください。

一目で分かる審議結果 ◆第3回定例会

議案	結果
板柳町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	全員同意
板柳町議会会議規則の一部改正について	全員可決
人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて2件	全員可決
弘前圏域定住自立圏の形成に関する協定の一部を変更する協定の締結について	全員可決
平成27年度板柳町水道事業会計未処分利益剰余金の処分について	全員可決
平成27年度板柳町公共下水道事業会計未処分利益剰余金の処分について	全員可決
平成28年度補正予算(板柳町一般会計他6件)	全員可決
平成27年度各会計決算の認定	全員可決
平成27年度板柳町健全化判断比率の報告について	
平成27年度資金不足比率の報告について	
一般財団法人板柳町産業振興公社りんごワーク研究所経営状況の報告について	
安全・安心の医療・介護を求める意見書	全員可決

議会ってどんなところ？



板柳高校の職業体験学習の一環で、3人が決算特別委員会を傍聴しました。

浅利由羅さん2年2組(写真左)

難しい内容で理解できるか心配でしたが、きちんと理解できました。一人ひとりが意見を持って、町を大切に思っていることが伝わってきました。

齋藤慶汰さん2年2組(写真中央)

議会は堅苦しい場所だと思いましたが、実際に見てみると、時には楽しそうに、和やかに議論を交わしているように見えました。

久米田朋進さん2年2組(写真右)

りんご以外でも板柳をPRすべきでは?の質問が、印象に残りました。たしかに、りんご以外でPRしていることがあまりないように思うからです。